

■数年後、5人に1人は認知症に

日本人の平均寿命は男性80・75歳、女性は86・99歳で過去最高を更新しました。(2017年厚生労働省発表)でも、気になる健康寿命との差は10年前後とあまり変化はありません。認知症になるリスクは、年を重ねるごとに高まります。

65歳以上の高齢者の認知症患者数と有病率の将来推計についてみる

と2012年は7人に1人(有病率15・0%)でしたが、2025年には約700万人、5人に1人になると見込まれています。

「家族が、自分が認知症になったら?」は、もしも:の話ではありません。

認知症を理解する人を増やすことで、地域で見守れるようになるという思いから、「徘徊マリン87歳の夏」の上映会に続いて、当事者から聞く学習会を開催しました。

した「笑恵館」のスタッフから声をかけられたのがきっかけです。

2階に住んで、ご自宅の一部を使って活動することを、「住み開き」と称します。

主たる運営はご近所同士でつくった砧むらおばあちゃん会議(OBK)です。

オープンの日には、大海氏が留学中に道端でアイシユタインと撮ったスナップ写真を囲んで大賑わい。残念ながらその後大海氏は急逝されました。

れました。

学習会 「認知症でもどんとっくー!」

今介護している方もこれからの方も、一緒に考えていきましょう。

講師 大海篤子さん

(くつろぎ処おおがいさんち)

日時 2018年1月30日

会場 生活クラブ生協中浦和本部

■介護保険制度の仕組みを知る

介護保険制度のないアメリカで、追い詰められていく認知症の母と娘を描いた映画「夕光の中でダンス」。

篤子さんは、映画の物語になぞらえて、いざ現実の事になる前に、制度の仕組みを知っておくことの重要性を教えてくださいました。

利用できるサービスを使い、身近に相談でき

る人がいれば安心なこと。

そして、家人がお散歩に出てなかなか帰ってこないなら、位置情報を安価で確認できるキッズ携帯がスグレモノでしたと、経験者は語ります。

住み開きは「市民がまちでできること」という篤子さんの提案でした。

こんな方法があるんだと、ちょっと明るい気持ちになりました。

●市民ネットワーク3つのルール

1. 議員(代理人)はローテーション

2. 議員報酬は市民のための活動に活用します

3. 選挙はカンパとボランティアで行います



あなたの声をお寄せください。

私たちは、日々の生活で気づいた疑問を出し合い、調べ、市政に提案する活動をしています。あなたの声と参加が、まちをつくります。市民ネットワーク鶴ヶ島に、ご意見をお寄せください。

メール tsurunetorg@gmail.com
FAX 049-285-3504

